

## 佳作

「創造する・挑戦する」

—アレルギーの子供に笑顔を—

渋谷教育学園渋谷高等学校 一年

石田 笙子

「かわいくなくていい、綺麗じゃなくていい。みんなと同じものが食べたい。」と妹は言った。その言葉を聞いた瞬間胸が張り裂けそうになったのを、果たして私は隠し通せていただろうか。叶えてはあげられない願いを前にして、私はいつもと変わらぬ表情でいることができただろうか。いや、きっとその思いは妹に伝わっていたのだろう。寂しそうな横顔が、問わずともそう教えてくれていた。

その日の妹はたった一人、皆と違う物を食べなければならなかった。小学校で開かれる茶道体験会にお茶菓子が出るというだけの理由で。こういった状況で、妹のようなアレルギーを持つ子供が一緒になって楽しむというのは非常に難しい。何故なら出されたものを必ず食べられるとは限らず、中には食品の飛沫でアレルギー反応を起こしてしまう子もいるからである。幸い妹は口に入れなければアレルギーの症状が出る

ことは無いが、皆が食べる予定の可愛らしいお茶菓子には妹がアレルギーを起こす原材料が使用されていたため、一緒に食べることはできなかったのだ。

隣に座ってそれを口に運ぶ友達を、妹は一体どのような気持ちで見ているのだろうか。「おいしい」と笑い合う友達が、どんなに羨ましかっただろう。—たった12歳の少女が食べ物で我慢を強いられる辛さや、手を伸ばせば触れる位置にあるのに届かない苦しさ。そして何より「自分だけ」皆と違う悲しさ。：声に出せばきつと涙がこみ上げてきてしまうから、妹は感情を押し殺していたに違いない。こういう時の気持ちは、何度味わっても慣れることはないと思う。

もちろん彼女にも、代わりに和菓子が与えられていた。それも大変丁寧に作られた、花びらをかたどったとても美しいお茶菓子。私と母で、妹に寂しい思いをさせないようにと時間をかけて名店で購入した逸品である。他の子のお茶菓子と比べても全く見劣りしない。むしろそれより数段綺麗で美しかったとさえ思う。しかしこのお茶菓子を母が妹に渡した時に、彼女は言ったのだ。「かわいくなくていい、綺麗じゃなくていい。みんなと同じものが食べたい。」と。

あなたは知っているだろうか、今も世界では多くの子供が食物アレルギーと闘っているという事実を。私達が何とも思

わず囲んでいる食卓を、心から望んでいる子供達が世界中に  
いることを。フルーツの甘さやみずみずしさを知らない子。  
米や小麦といった主食が食べられない子。中にはたった9種  
類の食品しか食べることを許されない子だっている。

そんな彼らが抱える苦しみは、何のアレルギーもない私に  
は決して理解してあげられない。しかし、例えそうであった  
としても、私は彼らにも「食べられる」喜びを経験させてあ  
げたいと切に願っている。私の力でアレルギーの子供を  
治してあげたい、と夢見てしまう。「辛くなんてないくせに」  
「我慢したことなどないくせに」と笑われてしまうだろうか。  
いや、それでも良い。なぜなら私は、妹を誰よりも近くで見  
てきたから。彼女が泣くのをじっと堪える仕事、何度も私  
の胸に突き刺さっていたから。

私はいつの日か一人の医師として、「かわいくなくていい、  
綺麗じゃなくていい。みんなと同じものが食べたい。」と願  
う子供に、みんなと一緒に笑顔になって貰うのが夢だ。だが  
それがどんなに困難なことか、十分に理解している。アレ  
ギーは薬や手術で完全に治すことができるものではない。自  
然に治ってしまう子もいれば、妹のように生まれて12年経っ  
た今でも苦しめられている子だっている。誰一人としてその  
理由を知る者は存在しないし、彼らを救う力を持たない。し

かしそれでもなお、私はこの手で現状を変えたい。

妹が初めて飲んだミルクを全て吐き出してしまったのを見  
た時、私は何が起きたのかわからなかった。妹はアナフィラ  
キシーショックで上手くできない呼吸のために必死に喉を震  
わせていた。両親の様子から只事ではないことを察し、私の  
足は恐怖で竦んで石へと変わり、一歩も動くことができな  
かった。苦しんでいる妹のために何一つできない。そんな無力  
な自分が今でも臉に焼き付いている。私が5歳の時のことだ  
った。

この出来事がきっかけで、私は医師になる、という揺るぎ  
ない目標に向かって日々過ごしている。妹が辛さのあまり流  
せなかった涙も、ただただ普通を願う苦しみも、それらは全  
て、私が医師になりたいという思いの糧となっているのだ。

—この先数えきれない程の困難にぶつかったり、挫折を味わ  
うことになるうとも。私の瞳には、妹の「おいしいね」と笑  
う姿が鮮明に映し出され、そしてそれはいつでも、私の背中  
を押してくれる。

「かわいくなくていい、綺麗じゃなくていい。みんなと同  
じものが食べたい。」と願う全ての子供達のために。この腕  
で今を変えられることを、信じている。